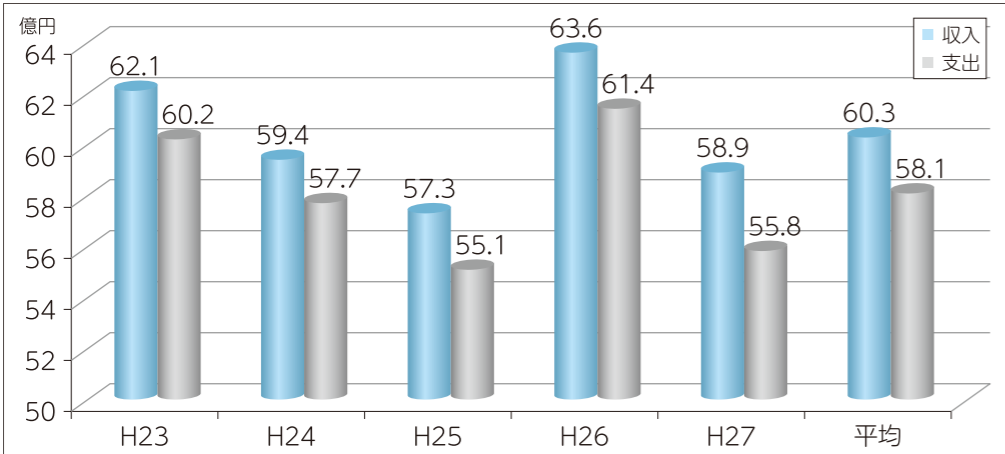
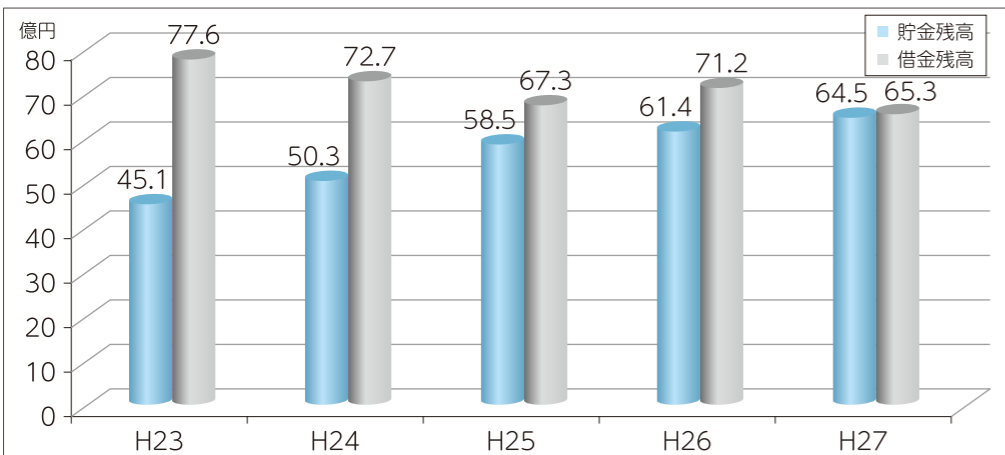


過去5年間の一般会計の収入と支出の推移



～ポイント～  
平成27年度は3億1945万円の黒字となり、毎年黒字を維持しています。

過去5年間の全会計の借金と貯金残高の推移

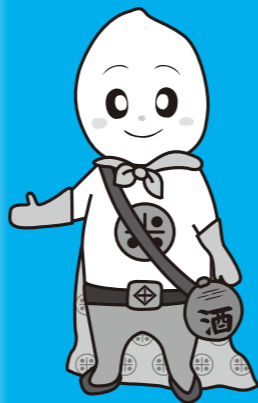


～ポイント～  
借金は減少傾向にあり、貯金は毎年増加しているため、その差は縮まっています。

健全化判断比率と公営企業資金不足比率

指標	健全化判断比率				公営企業 資金不足比率
	実質赤字比率 一般会計の赤字の 大きさ	連結実質赤字比率 全会計通算の赤字 の大きさ	実質公債費比率 負債の返済額の大き さ	将来負担比率 平成28年度以降支 払わなければならない 負債の大きさ	
早期健全化基準 (右の水準を越えると黄灯)	15%	20%	25%	350%	20%
新十津川町の 比率	—	—	0.5%	—	—
説明	赤字はありません	赤字はありません	健全な水準です	借金残高を、償還 財源が上回ります	赤字はありません

～ポイント～  
・「健全化判断比率」と「公営企業資金不足比率」は、まちの財政状況が悪くないかを確認するための指標で、法律によって公表することが義務付けられています。  
・新十津川町は、全ての会計で赤字はありません。また、将来支払わなければならない負債も無理なく返済できる金額となっています。



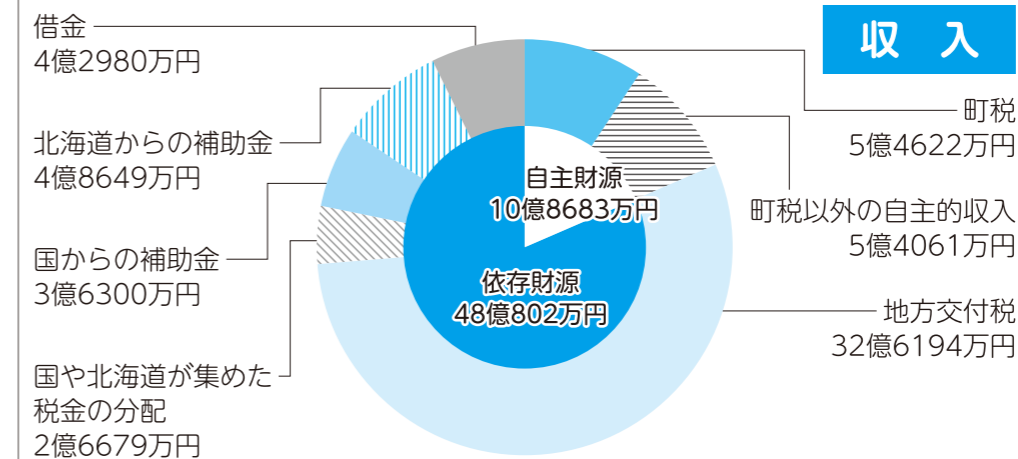
限られた財源の中で、計画的かつ効果的な財政運営を行っています。

まちの財政状況

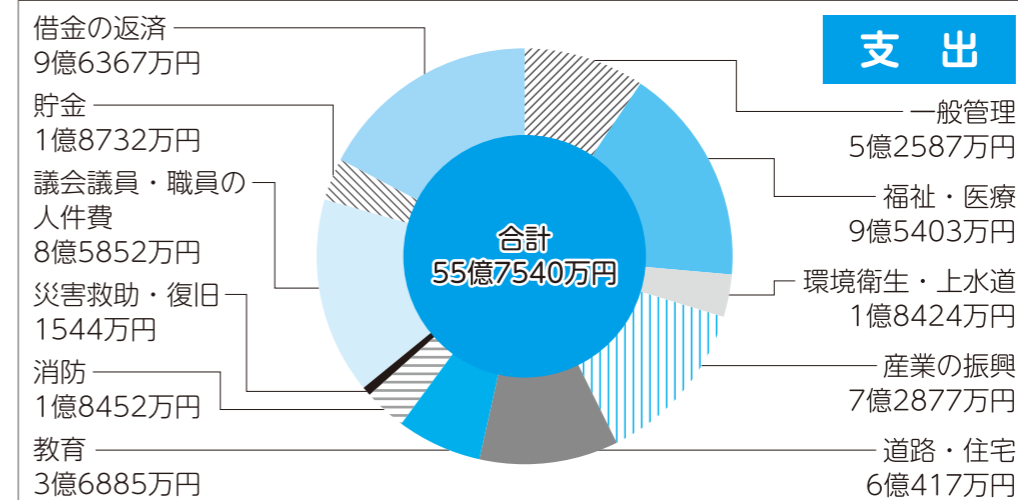
平成27年度各会計決算額

会計	収入	支出	差引
一般会計	58億9485万円	55億7540万円	3億1945万円
特別会計			
国民健康保険	3億8308万円	3億8304万円	4万円
後期高齢者医療	1億87万円	1億82万円	5万円
下水道事業	1億8970万円	1億8970万円	0円
農業集落排水事業	2863万円	2863万円	0円

一般会計の収入と支出の内訳



～ポイント～  
・「自主財源」とは、町税や施設使用料などまちが自主的に得られる財源です。  
・「依存財源」とは、地方交付税や国庫支出金、道支出金など国や北海道の基準に基づいて交付される財源です。



～ポイント～  
・産業の振興に関する経費は、国営樺戸地区土地改良事業の完了に伴い、町負担金を一括償還した平成26年度と比べて8億7000万円減少しました。  
・一般管理に関する経費は、老朽化した行政区自治会館の建替えなどにより、平成26年度に比べて1億8000万円増加しました。

平成27年度 決算の状況

町では毎年、予算の執行状況や決算について公表し、皆さんが納めた税金がどのように使われているのかをお伝えしています。ここでは、町の平成27年度決算の概要をお知らせします。

問合せ 総務課財務・情報グループ ☎76・21331